

第650回本委員会の主要議題と概要

09/04/24

2009年4月23日

第650回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長坂元龍三 東洋紡績株式会社社長 以下化繊協会）は、4月23日に第650回本委員会を開催しました。

今回の本委員会は年度替わりのため決算、予算（案）等の内部関連議題が多く、主要議題として以下の3件について報告がありました。

1. インド繊維産業調査

「インド繊維産業調査」は2008年度の協会活動テーマとして、インドにおける現地調査を含めて、調査委員会（委員長：(株)旭化成せんい 高井秀文社長）が取り組んできたものである。このほど内容がまとまったので、調査委員長会社の旭化成せんいの小寺調査委員長代理から、その報告があった。

目覚ましい発展を続けるインド経済の成長の柱は内需と海外直接投資であり、輸出依存度はそれほど高くはない。その点が、輸出拡大による外貨獲得を経済成長の原動力としているその他の経済発展途上国と一線を画するところである。しかし、そのインドにも世界同時不況の影響が及んでいるようである。本調査では昨年11月に現地調査を実施したが、その後のインド経済は、内需は基本的に底堅さを保っているものの、輸出の減速と海外直接投資の落ち込みなどで、減速を余儀なくされているとのことであった。

配布資料1：[インド繊維産業調査](#)  PDF (303KB)

2. TOKYO FIBER（ミラノ）展開催

TOKYO FIBER展は今年22日より27日までの期間、ミラノにおいて開催の運びとなった。そこで、事務局より、これまでの準備の経緯、基本コンセプト、素材情報の発信・会場運営・評価の工夫等について総括的な報告があった。

昨年2月に事業主体者として「TOKYO FIBER展実行委員会」（柳田容昭委員長、三菱レイヨン）を発足させてより14ヶ月かけて準備を進めてきたところである。TOKYO FIBER展の基本コンセプトは、(1)衣料用から産業資材用途まで、日本の高水準な技術と素材を訴求することを目的にクリエイターの感性で作品化すること、(2)従って、採用素材と作品との必然性について"成る程感"が確保されること、(3)情報発信、展覧会場の運営等において、将来の実ビジネスに繋がるような工夫を行うこと、の3点である。（詳細は配布資料を参照）

TOKYO FIBER展は、こうしたコンセプトをこれまでにない取り組みによって実現することで、日本の化学繊維産業の将来の可能性を世界に発信することを狙いとしたものであり、その成果を期待しているところである。

配布資料2：[TOKYO FIBER展（ミラノ開催）](#)  PDF (118KB)

3. 世界の繊維貿易フローの最近の特徴（日中欧米を中心に）

2008年及び本年に入っただの日中欧米を中心とした世界の繊維貿易の特徴的なフローについて、事務局より概要次のような報告があった。

2008年のアジア各国の繊維品輸出は世界的な景気減速の影響を受け、概ね鈍化傾向となった。中国は、前年までの2割近い大幅な増加から8%増に鈍化。韓国、台湾、インド等も鈍化乃至は減少したが、こうした中で、ベトナム、バングラデシュは低コストを武器に大幅増となった。

2008年の中国の繊維品輸出を相手別にみると、アジア向けは大幅に鈍化した。EU向けが2007年末で規制終了したことによって大幅増となる一方、米国向けは景気減速の影響もあり横ばいにとどまった。2009年1-2月の繊維品輸出は世界的な景気悪化の影響を受け、15%の大幅な落ち込みとなっている。

2008年のEUの繊維品輸入は7.3%増と前年の2桁増から鈍化した。中国との間で共同輸出入モニタリング制度が導入されたが、中国からの輸入は4品目が前年比倍増等、輸入抑制に作用しない結果となった。

2008年の米国の繊維品輸入は3.3%減と7年ぶりの減少となった上、2009年1-2月は深刻な消費不振から14%減となった。中国からの輸入は2008年に鈍化、09年に減少に転じたほか、メキシコ、CBI諸国等近隣からの輸入の大幅減が続いている。一方、ベトナム、バングラデシュなど低コストの国からの輸入は拡大が続いている。なお、中国からの輸入は、2008年末に規制終了したことで、2009年に入ると、規制の対象だった品目は大幅な輸入増となり、米中間の貿易摩擦の再燃が懸念されている。

2008年の日本の繊維品輸入は4.9%減であった。為替レートの影響もあり数量ではほぼ横ばい。中国からの輸入動向もほぼ同様の傾向を示している。ただし、中国から一部の化繊品目で輸入増が続いている。

配布資料3：[世界の繊維貿易フローの最近の特徴（日中欧米を中心に）](#)  PDF (100KB)

以上